

脱原発「歴史的な一歩」

4/15
18日 15時

住民側 歓喜と自信

「司法はやつぱり生きていた。関西電力高浜原発3、4号機（高浜町）の再稼働差し止めを命じた十四日の福井地裁仮処分決定。地裁前や会見場には、全国から集まった脱原発派の歓声と拍手が響いた。弁護団は、決定が原子力規制委員会の新規制基準を「合理性を欠く」と断じた点を大きく評価し、国に脱原発にかじを切るように求めた。①面参照

高浜再稼働差し止め

住民側弁護団は、福井市宝永三丁目の関西国際交流会館で記者会見と報告集会を開き「脱原発を前進させる歴史的な一歩」と意義を強調、他の原発への広がりにも自信を見せた。「徹底的に戦う最大の武器を手にした。きよから第三ラウンドが始まる。自信に満ちあふれた声が続くと、会場は大きな拍手に包まれた。集会に参加した支援者らは四百五十人、会場に収まりきらず、別室を設けるほど熱を帯びた。冒頭、弁護団の河合弘之共同代表が「大きな喜びとともに責任を感じている。日本の原発を全部やめ、廃炉に追い込まなければならぬ」と力を込めた。決定では、原子力規制委員会の新規制基準について「台

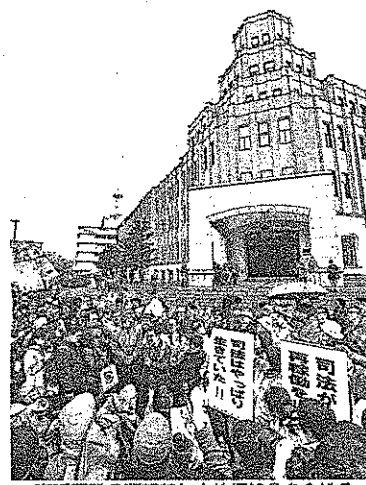


笑顔で記者会見に応じる（手前左から）今大地時美さん、河合弘之弁護士、海渡雄一弁護士、内山成樹弁護士＝14日午後、福井市の関西国際交流会館で（産経新聞撮影）

りきつず、別室を設けるほど熱を帯びた。冒頭、弁護団の河合弘之共同代表が「大きな喜びとともに責任を感じている。日本の原発を全部やめ、廃炉に追い込まなければならぬ」と力を込めた。決定では、原子力規制委員会の新規制基準について「台

地裁前でも「万歳」

高浜原発3、4号機の再稼働差し止め仮処分決定をいち早く知った、福井市の福井地裁前には多くの人が訪れ、住民側は主張を全面的に認める決定を喜んだ。



高浜原発の運転差し止め仮処分を命じる決定が出され、住民側弁護団や多くの支援者で混雑する福井地裁前＝14日午後、福井市登山1丁目（産経新聞撮影）

生きていた」の垂れ幕を掲げて判決を喜んだ住民たちは、今回も自分たちの主張が認められると確信している。大津市の福塚通広さん（68）は「大津地裁の仮処分申し立ては昨年十一月に却下されたが、今回判断を下されたのは樋口さん。絶対大丈夫と安心して待つことができた」と話した。決定文を

受け取った海渡雄一弁護士が「この命令は、原発再稼働を推進する」国と電力会社の暴挙を正した。今度こそ司法の判断を厳格に受け止めるべきだ」と興奮気味に声明を発表すると、「万歳」「素晴らしい」と歓声が次々と上がり「樋口さんありがとう」と叫ぶ人もいた。四年前の東京電力福島第一原発事故後、福島原発双葉

町から坂井市丸岡町遷居に避難している川崎美津子さん（68）は「私たちのように古里を奪われる人が二度と出ないための第一歩。すくすくうれしい」と笑顔で話した。一方、今後の課題を見据える人も。申立人の一人、昨年八月から毎日、県庁前で原発反対を訴えている坂井市丸岡町新鶴の石森修一郎さん（68）は「決定が追い風になるかもしれないけれど、まだ通過点。最高裁で認められるまで油断せず活動は続ける」と気を引き締めた。

福島事故後、千葉県鎌倉谷市の自宅が、放射線量の高い「ホットスポット」と知り、滋賀県東近江市に避難している主婦の山崎幸子さん（68）は「決定はうれしいうえ、原発に賛成する人や無関心な人も多い。これだけの人が強く再稼働に反対していることを知ってほしい」と話した。喜びを市民と共有しようとして地裁を訪れた山本太郎参院議員は「地裁の決定は国や規制委員会が原発安全神話の第一幕を始めのを止めてくれた。（国民の代表として）国会でも思いを伝えていく」と話した。（大山弘、鈴木あや）

表で敦賀市議の今大地時美さん（68）は、原発に頼らないまちづくりのため「脱原発派と推進派がともにどうやって生きていくかを考えるような大きなテーブルづくりに取り組んでいかないと行かない」と前を向いた。申立人の一人、水戸野世子さん（68）は「大阪府高槻市は福島事故を挙げつつ『原発が止まらない絶望感』は大きかった」と心情を吐露。「原発を全部止めた。これが未来の子どものために最低の義務」と語った。市民団体「福井から原発を止める裁判の会」代表の中島哲彦さん（68）も駆けつけた。「理想と現実が乖離するのは世の世でもあるが、理想と現実が一枚にならぬと評価。「再稼働を許していくなら第一、第二の福島は必然。あと二、三年が正念場。再稼働を一基も許さなければ、原発ゼロの社会に日本は踏み出せない」と訴えた。

十五日には、大坂訴訟の控訴審が名古屋高裁金沢支部で開かれる。審理の前に中島さんは電力会社について呼び掛けた。「決定に背いて再稼働に暴走していくなら、国民の反発を受けるだけ。謙虚に脱原発の第一歩を踏み出すなら、どれほど国民の共感と支持を得られるのか分りません」（山本洋児、高橋雅人、中嶋賢一）

避難者から評価の声も 東京電力福島第一原発事故から四年余りたっても、多くの人々が避難生活を送る福島県。故郷を追われた人たちからは、高浜原発再稼働差し止めの仮処分決定を歓迎する声が上がった。浪江町から福島市に避難している近藤京子さん（68）は「再稼働のハードルを見直すチャンスを開けた」と決定のニュースを喜ぶ。四十年前以上続く陶芸家の家系。浪江町の家には代々伝わる家宝が残され、一部はサルやインシシに壊された。「今のまま再稼働したら、私たちがこんな目に遭った意味がない」

南相馬市から津若松市に避難中の会社経営、和田智行さん（68）も「一歩だけ前進」と評価する。「このことを奪われる損失は大きなことに換算できない」。帰還に向けた起業支援を進めるが、とれただけの住民が戻るか分らない。原発事故の責任を追及している「福島原発訴訟団」の武藤類子団長（68）は「原子力規制委員会も電力会社も、判決を重く受け止めて求めた。

- 2013年
7・8 関電が大飯、高浜の原子炉設置変更許可申請書などを原子力規制委に提出
- 2014年
5・21 大飯の運転差し止めを命じる判決（福井地裁）
22 関電が名古屋高裁金沢支部に控訴
30 住民側が原告適格を広げるよう求めて金沢支部に控訴
11・5 控訴審第1回口頭弁論（金沢支部）
27 滋賀県住民らによる大飯と高浜の差し止め仮処分申し立て却下
12・5 福井県住民らが、大飯と高浜での差し止め仮処分申し立て（福井地裁）
- 2015年
1・28 福井地裁で仮処分申し立ての第1回審尋
2・12 原子力規制委、適合と判断して関電の申請を許可
3・11 第2回審尋で、高浜原発分は結審
4・14 福井地裁、高浜の運転差し止めの仮処分決定
※「大飯」は大飯原発3、4号機。「高浜」は高浜原発3、4号機を指す